

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	国語表現		
必修選択	必修	(学則表記)	国語表現		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	なし			出版社	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	・医療機関で働く社会人として必要な国語力を高め、適切な報告書などを作成できるよう国語力を高める。 ・チーム医療の一員として会話でのコミュニケーション力を向上する。				
到達目標	・感想と考察の違いを理解する ・適切な表現で文章を書くことができる				
評価基準	期末テスト：60％　提出物：30％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	櫻井　友里恵			実務経験	
実務内容					
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について			
2	文章読解の方法Ⅰ	語彙力・文字力を養う			
3	文章読解の方法Ⅱ	読解する力を養う			
4	文章読解の方法Ⅲ	例文を用いて文章の要約をする			
5	文章表現の方法Ⅰ	日常的な文章能力を養う			
6	文章表現の方法Ⅱ	ビジネスシーンで使用する文章の構成を学ぶ			
7	表現についてⅠ	文章の中での気遣いとは何かを学ぶ			
8	表現についてⅡ	人間関係を構築する上で必要な文章の表現などを学ぶ			
9	実習日誌についてⅠ	実習日誌の書き方について学ぶ			

10	実習日誌についてⅡ	感想と考察の違いを学ぶ
11	実習日誌についてⅢ	違いについて例文を用いて理解する 例文を用いて感想と考察を書く
12	実習日誌についてⅣ	実習日誌を実習内容に合わせて記入する①
13	実習日誌についてⅤ	実習日誌を実習内容に合わせて記入する②
14	振り返り	振り返り
15	総まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	プレゼンテーション実践		
必修選択	必修	(学則表記)	プレゼンテーション実践		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	プリント		出版社	なし	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	就職活動時、自分をPRできるように自己分析・自己開示・自己主張・聞く力・思考力・判断力・表現力を身につける。				
到達目標	就職活動時や職場等で人前で話す技術を学び、実践できる。				
評価基準	発表：70％　小テスト・提出物：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	櫻井　友里恵		実務経験		
実務内容					
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	オリエンテーション プレゼンテーションとは	傾聴とは/アクティブラーニング			
2	話すときの心構えと基本	ピクチャーフィギュア			
3	表情（表現力）	第一印象(メラビアンの法則)　/表情チェック			
4	思考力Ⅰ	思考力とは/ストーリー構成の型/いろいろな立場			
5	思考力Ⅱ／表現力	ストーリー構成の三原則/PREP法			
6	ディスカッション	グループディスカッション			
7	自分自身を知るⅠ	4つの自分(ジョハリの窓)/自己PR文作成			
8	自分自身を知るⅡ	自己PR発表			

9	自己分析Ⅰ	自己分析の理解
10	自己分析Ⅱ	自己分析づくり
11	業界・職種・仕事内容 研究Ⅰ	個人で調べ、まとめる
12	業界・職種・仕事内容 研究Ⅱ	グループ内で個別発表
13	業界・職種・仕事内容 研究Ⅲ	個人発表を基に、グループで調べまとめる
14	業界・職種・仕事内容 研究Ⅳ	グループごとに発表
15	まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	衛生行政		
必修選択	必修	(学則表記)	衛生行政		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度」		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解し、歯科衛生のあり方を考える態度を養うために、歯科衛生に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	・日本の医療制度を概説できる。 ・歯科衛生士法に規定されている義務・責務を説明できる。 ・歯科医師の指示で歯科診療の補助を行う医療職種を列举できる。				
評価基準	期末テスト：70％ 小テスト：20％ 授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	歯科衛生概論Ⅰ／社会福祉				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	森合 恵子		実務経験	○	
実務内容	大学病院や特別養護老人ホーム、歯科クリニックで歯科衛生士として25年勤務した実務経験を基に、歯科衛生に必要な法律・制度に関する基本的知識を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	わが国の医療制度Ⅰ	保健・医療・福祉の制度を学修する目的/法律・政令・省令・条例			
2	わが国の医療制度Ⅱ	医療法/歯科医師法/歯科技工法			
3	歯科衛生士法Ⅰ	歯科衛生士法の成り立ち/歯科衛生士法の目的・定義・業務			
4	歯科衛生士法Ⅱ	免許・歯科衛生士名簿・登録・免許証の交付および届出/相対的欠格事由/免許の取消し 他			
5	歯科衛生士法Ⅲ	歯科衛生士国家試験/受験資格・受験手続き等/その他の業務上の義務			
6	歯科医療とかかわる医療関係者	法的に歯科医師の指示で歯科医療の補助を行う医療関係者			
7	医療関係職種の法律Ⅰ	保健師助産師看護師法/臨床検査技師等に関する法律			
8	医療関係職種の法律Ⅱ	診療放射線技師法/言語聴覚士法/薬剤師法/その他の医療関係職種に係る法律			

9	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムの背景・定義/地域包括支援センター
10	地域保健に関する法律Ⅰ	地域保健法/健康増進法
11	地域保健に関する法律Ⅱ	母子保健法/学校保健安全法/労働安全衛生法/精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
12	歯科口腔保健の推進に関する法律 薬事に関連する法規Ⅰ	歯科口腔保健の推進に関する法律（歯科口腔保健法） 医薬品・医療機器等の品質・有効性及び安全性に関する法律（医薬品医療機器等法）
13	薬事に関連する法規Ⅱ	その他の薬事衛生法規
14	その他の衛生法規Ⅰ	食品衛生法/感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)
15	その他の衛生法規Ⅱ	予防接種法/検疫法/廃棄物の処理及び清掃に関する法律

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	社会福祉		
必修選択	必修	(学則表記)	社会福祉		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度」		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	日本の保健・医療・福祉制度と医事法制を理解し、歯科衛生のあり方を考える態度を養うために、歯科衛生に必要な法律・制度に関する基本的知識を習得する。				
到達目標	・社会保険の種類とその特徴を説明できる。 ・医療保険の種類とその法律を説明できる。 ・歯科衛生士が関わる社会福祉を説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％ 小テスト：20％ 授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	衛生行政				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	北上 愛子		実務経験	○	
実務内容	病院やデイサービスにて介護福祉士として19年間勤務した実務経験を基に、歯科衛生に必要な法律・制度に関する基本的知識を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	社会保障・社会保険とは	社会保障とは/社会保険とは			
2	医療保険Ⅰ	医療保険制度改革/医療保険の種類			
3	医療保険Ⅱ	医療保険の仕組み/審査支払機関/高齢者の医療の確保に関する法律			
4	介護保険Ⅰ	介護保険制度概要/保険給付に必要な手続き/保険給付と介護報酬			
5	介護保険Ⅱ	費用負担の仕組み/口腔関連の介護サービス/介護予防の導入と改編/地域包括ケアシステム			
6	年金保険	年金保険制度概要/公的年金制度の特徴/年金の給付			
7	労働法規と労働保険	労働基準法/雇用保険/労働者災害補償保険/労災給付			
8	社会福祉Ⅰ	社会福祉行政			

9	社会福祉Ⅱ	生活保護と法規
10	社会福祉Ⅲ	児童と家庭の福祉制度と法規
11	社会福祉Ⅳ	障害者の福祉制度と法律
12	社会福祉Ⅴ	高齢者の福祉制度と法律
13	医療の動向Ⅰ	国民の健康状態と受療状況
14	医療の動向Ⅱ	医療施設/医療従事者
15	医療の動向Ⅲ	国民医療費

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	保健情報統計学		
必修選択	選択	(学則表記)	保健情報統計学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	2	30
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健情報統計学」		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	個人および集団の歯・口腔の健康と予防プログラムを構築するために、関連する保健情報を把握し、衛生統計の手法を習得する。				
到達目標	・保健情報と疫学について、疫学の目的と因果関係の説明、調査方法及び研究方法の分類と説明ができる。 ・歯科疾患の指数を列挙し、う蝕、歯周疾患および口腔清掃状態についての指数を説明できる。 ・保健統計において、データの数値のもつ特徴を理解し、数値に応じた代表値や散布度の選択、数値の特徴や分布に応じた検定を選択できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	口腔衛生学Ⅰ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	青野　茉莉恵		実務経験	○	
実務内容	歯科医院にて歯科医師として12年間勤務した実務経験を基に、衛生統計の手法を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	保健情報と保健統計	保健情報とは/保健統計とは/保健情報の種類/国家統計調査			
2	保健情報と疫学Ⅰ	疫学総論/健康障害の発生要因/疫学の方法論①			
3	保健情報と疫学Ⅱ	疫学の方法論②/スクリーニング			
4	歯科疾患の指数Ⅰ	数量化と指数/う蝕の指数			
5	歯科疾患の指数Ⅱ	歯周疾患の指数			
6	歯科疾患の指数Ⅲ	口腔清掃状態の指数			
7	歯科疾患の指数Ⅳ	不正咬合と歯列不正の指数/歯のフッ素症指数/その他の歯科保健指標			
8	保健情報の分析手順Ⅰ	保健情報の収集/調査			

9	保健情報の分析手順Ⅱ	母集団と標本抽出
10	保健統計の方法Ⅰ	データの特性/記述統計/推定と信頼区間
11	保健統計の方法Ⅱ	検定/保健情報の多変量解析/その他
12	保健情報の分析演習Ⅰ	解析と検定の演習①
13	保健情報の分析演習Ⅱ	解析と検定の演習②
14	保健情報の分析演習Ⅲ	解析と検定の演習③/プレゼンテーション：データの表現
15	情報の保護と倫理	情報社会の特性と問題点/情報の開示/個人情報の保護/インターネットと情報倫理（情報モラル）

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	歯科衛生士概論Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	歯科衛生士概論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科衛生学総論」 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	歯科衛生士業務を実践して人々の健康づくりを支援するために、保健医療人としての基本的態度を理解し、多様な科目において知識・技術を習得する態度および論理的思考法の基礎を習得する。				
到達目標	・ 歯科衛生過程の流れの概説、および6つの構成要素をそれぞれ説明できる。 ・ 歯科衛生士が歯科衛生活動を行うにあたり、科学的根拠や論理的思考の必要性和重要性を説明できる。 ・ 歯科衛生過程の一連の流れを 実践を通して学び、歯科衛生過程の活用法とその利点を説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	歯科衛生士概論Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	三好　香織		実務経験	○	
実務内容	歯科衛生士として、大学病院やクリニックにて8年間勤務した実務経験を基に、論理的思考法の基礎を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	歯科衛生過程の概要Ⅰ	歯科衛生過程とは/6つの構成要素/歯科衛生過程を進めるうえで重要な考え方			
2	歯科衛生過程の概要Ⅱ	歯科衛生士の視点による問題解決			
3	歯科衛生アセスメントⅠ	歯科衛生アセスメントとは/情報収集・情報処理			
4	歯科衛生アセスメントⅡ	歯科衛生アセスメントの実践・記録			
5	歯科衛生診断Ⅰ	歯科衛生診断とは/問題の明確化			
6	歯科衛生診断Ⅱ	歯科衛生診断の実践・記録			
7	歯科衛生計画立案Ⅰ	目標の種類と目標設定のプロセス/計画立案			
8	歯科衛生計画立案Ⅱ	歯科衛生計画立案の実践・記録			

9	歯科衛生介入Ⅰ	歯科衛生介入とは/歯科衛生計画の実施
10	歯科衛生介入Ⅱ	歯科衛生介入の実施後の実施記録①
11	歯科衛生介入Ⅲ	歯科衛生介入の実施後の実施記録②
12	歯科衛生評価Ⅰ	歯科衛生評価とは/プロセスと結果の評価
13	歯科衛生評価Ⅱ	歯科衛生評価の実践・記録
14	記録Ⅰ	記録（書面化）/POS・SOAP
15	記録Ⅱ	記録まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	小児歯科学		
必修選択	必修	(学則表記)	小児歯科学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「小児歯科学」		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	歯科衛生士業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を理解する。				
到達目標	・成人歯科と小児歯科の違いを説明できる。 ・歯列および咬合の正常発育とその障害を説明できる。 ・小児う蝕の特徴、う蝕予防および進行抑制法を説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	堤　大輔		実務経験	○	
実務内容	歯科医院で歯科医師として勤務をした実務経験を基に、小児の歯科治療の知識を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	小児歯科学概論 心身の発育	小児歯科学とは：小児と歯科医療/小児歯科の意義と目的/発育段階と口腔の変化 発育の概念と分類/発育状態の評価/生理的年齢/器官の発育/精神発達/機能の発達			
2	小児の生理的特徴 顔面頭蓋の発育	バイタルサインと生理的特徴/薬剤処方と薬物療法 脳頭蓋と顔面頭蓋の発育変化/脳頭蓋の発育の特徴/顔面頭蓋の発育の特徴/発育の評価法			
3	歯の発育とその異常	乳歯・幼若永久歯の特徴/歯の形成/歯の発育時期と形成異常/歯の萌出/歯の萌出異常			
4	歯列・咬合の発育と異常	歯列・咬合の発育/歯列・咬合の異常			
5	小児の歯科疾患 小児虐待	小児にみられるう蝕/小児にみられる歯周疾患/小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患 小児虐待とは/種類/頻度と虐待者・起こる背景/頭部・顔面・口腔・歯の所見/歯科とのかかわり			
6	小児期の特徴と歯科的問題点 小児歯科における患者との対応法Ⅰ	乳幼児期・学童期・思春期の特徴、留意点と特徴的歯科疾患 小児・保護者と歯科医師・歯科衛生士との関係/歯科診療室における小児の態度と行動			
7	小児歯科における患者との対応法Ⅱ	年齢別にみた小児の行動と対応法/歯科治療時の対応法			

8	小児歯科における診療体系Ⅰ	小児歯科診療とその特徴/小児歯科診療における原則/診察・検査・診断/小児の歯の健康教室
9	小児歯科における診療体系Ⅱ	小児歯科における麻酔法/小児の歯冠修復：乳歯の歯冠修復、幼若永久歯の歯冠修復
10	小児歯科における診療体系Ⅲ	小児の歯内療法：乳歯の歯内療法、幼弱永久歯の歯内療法
11	小児歯科における診療体系Ⅳ	小児の外科処置：乳歯の抜歯、小手術/外傷の処置
12	小児歯科における診療体系Ⅴ	咬合誘導/フッ化ジアンミン銀塗布/リコール（定期健診）
13	障害児の歯科治療	障害児における歯科的対応/主な障害とその全身的・歯科的特徴/障害児への対応
14	う蝕予防	プラークコントロール/フッ化物の応用/小窩裂溝填塞法/代用甘味料/う蝕予防のための食生活指導
15	小児の口腔健康管理 歯科診療室と器材の管理	目的/方法 歯科診療室の管理/器材の管理

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	矯正歯科学		
必修選択	必修	(学則表記)	矯正歯科学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科矯正学」第2版		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	歯科衛生業務を行うために必要な不正咬合の症状および治療法を理解する。				
到達目標	・不正咬合の原因と種類を列挙できる。 ・矯正装置の種類、構造および機能を説明できる。 ・矯正治療に用いる器材とその取り扱いを説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	栗林　研治		実務経験	○	
実務内容	歯科医院で歯科医師として26年勤務をした実務経験を基に、不正咬合の症状および治療法を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	歯科矯正学概論	歯科矯正学の定義/不正咬合による障害/矯正歯科治療の意義と目的/矯正歯科治療の一般的なプロセス/矯正歯科治療の種類と時期/歯科衛生士の役割			
2	成長発育	成長発育概論/頭蓋および顎顔面の成長発育/歯・歯列の成長発育/顎口腔機能の発達			
3	咬合	正常咬合/不正咬合/不正咬合の原因/不正咬合の予防			
4	検査と診断Ⅰ	矯正歯科治療における検査と診断のプロセス／形態的検査・分析			
5	検査と診断Ⅱ	機能的検査・分析/矯正歯科治療における抜歯/検査と診断に関わる歯科診療の補助			
6	矯正歯科治療における生体力学と生体反応	矯正力の種類/歯の移動様式/固定/矯正力による組織変化/矯正力による生体反応/強い矯正力による生体反応			
7	矯正歯科治療と装置Ⅰ	器械的矯正装置－固定式矯正装置/器械的矯正装置－可撤式矯正装置			
8	矯正歯科治療と装置Ⅱ	器械的矯正装置－顎外矯正装置/機能的矯正装置/その他の矯正装置/保定装置			

9	矯正歯科治療の実際Ⅰ	叢生/上顎前突/下顎前突/上下顎前突/過蓋咬合/開咬/交叉咬合
10	矯正歯科治療の実際Ⅱ 矯正歯科治療に伴うリスクとその対応	口唇裂・口蓋裂/成人矯正歯科治療/顎変形症と外科的矯正治療/MTM
11	矯正歯科治療に用いる器材と 使用の手順Ⅰ	マルチブラケット装置を構成する器材/マルチブラケット装置の装着・調整・撤去に用いる器具①
12	矯正歯科治療に用いる器材と 使用の手順Ⅱ	マルチブラケット装置の装着・調整・撤去に用いる器具②/その他の矯正装置の製作・調整に用いる器材
13	矯正歯科治療に用いる器材と 使用の手順Ⅲ	検査・分析に用いる器具/マルチブラケット装置の装着・撤去の手順/矯正歯科治療における器材の 再生処理
14	口腔筋機能療法〈MFT〉	口腔筋機能療法〈MFT〉とは/口腔筋機能療法の進め方/口腔筋機能療法の実際
15	矯正歯科治療における口腔衛生管理と指導 矯正装置に関わる歯科衛生の実践	矯正歯科治療における口腔衛生管理/矯正装置に関わる指導/保定中の管理と指導

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	歯科放射線学		
必修選択	必修	(学則表記)	歯科放射線学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科放射線学」		出版社	医歯薬出版	
授業のねらい	歯科疾患の診断および歯科衛生業務の実施に必要な画像検査の意義を理解する。また、エックス線写真撮影時の補助のために必要な撮影手順、放射線防護の方法を習得する。				
到達目標	・放射線の生物学的影響を理解し、放射線防護を概説できる。 ・口内法ならびにパノラマエックス線撮影の手技を説明できる。 ・口内法エックス線写真およびパノラマエックス線写真のエックス線解剖の概要を表記できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	醍醐　一也		実務経験	○	
実務内容	クリニックで歯科医師として7間勤務した実務経験を基に、画像検査の意義や必要な撮影手順、放射線防護の方法を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	歯科医療と放射線Ⅰ	歯科におけるエックス線写真と画像診断			
2	歯科医療と放射線Ⅱ	放射線とその性質			
3	歯科医療と放射線Ⅲ	放射線の人体への影響と防護			
4	エックス線画像の形成	エックス線と画像の形成/エックス線フィルムと増感紙/デジタル画像系			
5	歯科におけるエックス線検査Ⅰ	口内法エックス線撮影①：画像の特徴と検査目的/口内法エックス線撮影装置			
6	歯科におけるエックス線検査Ⅱ	口内法エックス線撮影②：口内法エックス線フィルム/口内法エックス線センサー			
7	歯科におけるエックス線検査Ⅲ	口内法エックス線撮影③：エックス線投影の原則/平行法撮影/咬翼法撮影/咬合法撮影			
8	歯科におけるエックス線検査Ⅳ	パノラマエックス線撮影/頭部エックス線規格撮影/その他の画像検査法			

9	口内法エックス線撮影の実際Ⅰ	口内法エックス線撮影の準備/フィルムとヘッドの位置づけ
10	口内法エックス線撮影の実際Ⅱ	配慮が必要な患者のエックス線撮影/感染予防
11	口内法エックス線撮影の実際Ⅲ	口内法エックス線写真のみかた
12	パノラマエックス線撮影	パノラマエックス線撮影の準備/患者の誘導と位置づけ/パノラマエックス線写真のみかた
13	写真処理と画像保管の実際Ⅰ	写真処理/品質保証計画の実施/医療機器の保守・点検
14	写真処理と画像保管の実際Ⅱ	エックス線写真の整理・観察・保管/デジタルシステムにおける画像の扱いと管理
15	放射線治療と口腔管理	放射線治療/放射線治療による有害事象/放射線治療患者の口腔管理

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	高齢者歯科学		
必修選択	必修	(学則表記)	高齢者歯科学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	歯科衛生業務を行うために必要な高齢者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。また、高齢者の歯科治療の補助のために必要な治療手順を理解し、患者対応を習得する。				
到達目標	・全身および口腔の加齢と老化を説明できる。 ・高齢者のための社会保障と医療・保健・福祉を説明できる。 ・高齢者の全身疾患と口腔疾患の特徴を説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	歯科保健指導Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	萩　名子		実務経験	○	
実務内容	各種病院にて歯科医師として21年間勤務した実務経験を基に、高齢者の身体的・心理的特徴や歯科治療の補助のために必要な治療手順を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	高齢者歯科学と歯科衛生士の役割	高齢者歯科学と歯科衛生士/医療連携/「口腔ケア」から「口腔健康管理」へ			
2	高齢者をとりまく社会と環境Ⅰ	高齢社会と健康			
3	高齢者をとりまく社会と環境Ⅱ	高齢者の健康に関わる法制度①：老人保健・医療・福祉対策の経緯/介護保険制度			
4	高齢者をとりまく社会と環境Ⅲ	高齢者の健康に関わる法制度②：歯科衛生士が関わる介護保険			
5	高齢者をとりまく社会と環境Ⅳ	地域包括ケアシステム			
6	高齢者をとりまく社会と環境Ⅴ	高齢者の居住形態・施設および入院設備の特徴			
7	加齢による身体的・精神的変化と疾患Ⅰ	加齢に伴う身体的機能の変化			
8	加齢による身体的・精神的変化と疾患Ⅱ	高齢者の精神・心理的变化			

9	加齢による身体的・精神的変化と疾患Ⅲ	高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患①：歯科治療時に注意すべき全身疾患
10	加齢による身体的・精神的変化と疾患Ⅳ	高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患②：生活機能を低下させる全身疾患
11	加齢による身体的・精神的変化と疾患Ⅴ	高齢者に多い全身疾患・障害および口腔疾患③：高齢者に特有な口腔の疾患・症状
12	高齢者の状態の把握Ⅰ	高齢者の生活機能の評価
13	高齢者の状態の把握Ⅱ	高齢者歯科と臨床検査
14	高齢者の状態の把握Ⅲ	高齢者の栄養状態
15	高齢者の状態の把握Ⅳ	高齢者の薬剤服用

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	障害者歯科学		
必修選択	必修	(学則表記)	障害者歯科学		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「障害者歯科学」第2版		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	歯科衛生業務を行うために必要な障害児者の身体的・心理的特徴と歯科治療を理解する。また、障害児者の歯科治療の補助のために必要な患者対応、摂食嚥下の検査および訓練法を習得する。				
到達目標	・ 障害の種類・歯科的特徴および歯科保健医療の留意点を説明できる ・ 障害児者の保健・医療・福祉制度を説明できる。 ・ 障害児者の摂食嚥下障害とリハビリテーションを説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	萩　名子		実務経験	○	
実務内容	各種病院にて歯科医師として21年間勤務した実務経験を基に、障害児者の身体的・心理的特徴や障害児者の歯科治療の補助のために必要な知識を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	障害の概念	歯科医療におけるスペシャルニーズ/障害の分類/生活機能に特別な支援を必要とする人のQ O L /ノーマライゼーションとバリアフリー/スペシャル・ニーズの発生とその受容/障害のある人と医療・福祉制度の仕組み			
2	歯科医療で特別な支援が必要な疾患Ⅰ	神経発達症群			
3	歯科医療で特別な支援が必要な疾患Ⅱ	運動障害（神経・筋系疾患）			
4	歯科医療で特別な支援が必要な疾患Ⅲ	感覚障害/音声言語障害			
5	歯科医療で特別な支援が必要な疾患Ⅳ	精神および行動の障害/その他～障害がある人への虐待			
6	障害者の歯科医療と行動調整Ⅰ	コミュニケーションの方法/行動療法（行動変容法）			
7	障害者の歯科医療と行動調整Ⅱ	体動のコントロール/薬物的行動調整法			
8	健康支援と口腔衛生管理Ⅰ	障害者本人や介助者が行う口腔のケアへの支援/口腔健康管理			

9	健康支援と口腔衛生管理Ⅱ	特別な配慮が必要な患者の口腔健康管理
10	リスク評価と安全管理	障害者歯科におけるリスク評価/障害別のリスクと対応/医療安全管理体制/感染制御体制
11	摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割Ⅰ	摂食嚥下リハビリテーションとは/摂食嚥下障害と口腔管理/摂食嚥下障害と栄養管理/摂食嚥下障害の評価法
12	摂食嚥下リハビリテーションと歯科衛生士の役割Ⅱ	摂食機能療法/小児の摂食嚥下障害への対処法/成人期・老年期の摂食嚥下障害の評価と対処法/摂食嚥下リハビリテーションにおける歯科衛生士の役割と多職種連携
13	地域における障害者歯科Ⅰ	障害者歯科と地域医療連携/障害者歯科と関連職種/保健・医療・福祉のネットワーク
14	地域における障害者歯科Ⅱ	一次医療機関における障害者歯科/二次医療機関における障害者歯科/三次医療機関における障害者歯科
15	障害者歯科における歯科衛生過程	障害者歯科における歯科衛生過程の事例

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	歯科予防処置論Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	歯科予防処置論Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	2	60
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	歯科予防処置における歯科衛生士の役割を理解し、口腔衛生管理を目的とした歯周病予防処置を安全・的確に行うための知識、技術および態度を習得する。				
到達目標	・プロービング、コンタクトポイント測定において、器材の特徴・用途を理解し、正しい診査方法を習得する。 ・歯面研磨において、器材の特徴・用途を理解し、安全かつ正しい操作方法を習得する。 ・相互実習において、目的・心構えおよび実習内容・手順の理解を深め、学内用診療録の記入方法・カルテ記載用語を習得する。 ・基礎実習で習得した知識・技術をもとに、相互実習において安全・的確なシクルスケーリングができる。 ・キュレットスケーラーの形態・特徴・用途の理解を深め、安全かつ正しい操作方法を習得する。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト(実技テスト)：20％　提出物：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	歯科予防処置論Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	小林　聖子　他1名		実務経験	○	
実務内容	大学病院や病院、クリニックで歯科衛生士として29年間勤務した実務経験を基に、口腔衛生管理を目的とした歯周病予防処置を安全・的確に行うための知識、技術および態度を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	プロービング・コンタクトポイント・動揺度測定 基礎実習Ⅰ(講義・実習)	プロービング、コンタクトポイント測定、動揺度測定　基礎実習①（講義・実習）			
2	プロービング・コンタクトポイント・動揺度測定 基礎実習Ⅱ(講義・実習)	プロービング、コンタクトポイント測定、動揺度測定　基礎実習②（講義・実習）			
3	歯面研磨 基礎実習Ⅰ(講義・実習)	歯面研磨　基礎実習①（講義・実習）			
4	歯面研磨 基礎実習Ⅱ(実習)	歯面研磨　基礎実習②（実習）			
5	相互実習についてⅠ(講義)	相互実習について①（講義）			
6	相互実習についてⅡ(講義・実習)	基礎実習室：相互実習について②（講義・実習）			
7	口腔内診査 相互実習(実習)	臨床実習室：口腔内診査　相互実習（実習）			
8	キュレットスケーラー操作 3群(講義・実習)	基礎実習室：キュレットスケーラー操作 3群（講義・実習）			

9	シクルスケーリング 1・2 群 相互実習(実習)	臨床実習室：シクルスケーリング 1・2群 相互実習①（実習）
10	キュレットスケーラー操作 4群（講 義・実習）	基礎実習室：キュレットスケーラー操作 4群 および 3群 復習（実習）
11	シクルスケーリング 1・2群 相互実習（実習）	臨床実習室：シクルスケーリング 1・2群 相互実習②（実習）
12	キュレットスケーラー操作1・2群 （実習）	基礎実習室：キュレットスケーラー操作 1・2群 および 4群 復習（実習）
13	シクルスケーリング3・4群 相 互実習（実習）	臨床実習室：シクルスケーリング 3・4群 相互実習（実習）
14	キュレットスケーラー操作 5・6群 (実習)	基礎実習室：キュレットスケーラー操作 5・6群 および 1・2群 復習（実習）
15	シクルスケーリング 5・6群 相互実習（実習）	臨床実習室：シクルスケーリング 5・6群 相互実習（実習）

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	歯科予防処置論Ⅲ		
必修選択	必修	(学則表記)	歯科予防処置論Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	2	60
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	歯科予防処置における歯科衛生士の役割を理解し、口腔衛生管理を目的とした歯周病予防処置を安全・的確に行うための知識、技術および態度を習得する。				
到達目標	・これまでの基礎実習で習得した知識と技術をもとに、相互実習を通して 術者・補助者・患者の3者の役割を経験し、それぞれの立場での心構えや態度・技術・患者心理と患者配慮を学び、身につける。 ・感染予防対策および偶発事故対策についての知識を深め、医療人としての的確に行動できるようになる。 ・ファントム上においての、安全・適確なキュレットスケーラー操作技術を習得する。 ・パワー(機械的)スケーラー・PMTC用器材の特徴・用途の理解、正しい操作方法を習得し、口腔内での安全な操作ができる。				
評価基準	期末テスト：70％ 実技テスト：20％ 提出物：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	歯科予防処置論Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	小林 聖子 他1名		実務経験	○	
実務内容	大学病院や病院、クリニックで歯科衛生士として29年間勤務した実務経験を基に、口腔衛生管理を目的とした歯周病予防処置を安全・的確に行うための知識、技術および態度を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	キュレットスケーラー操作 7・8群 (実習)	基礎実習室：キュレットスケーラー操作 7・8群 および 5・6群 復習 (実習)			
2	シックルスケーリング 7・8群 相互実習 (実習)	臨床実習室：シックルスケーリング 7・8群 相互実習 (実習)			
3	キュレットスケーラー操作 9・10群 (実習)	基礎実習室：キュレットスケーラー操作 9・10群 および 7・8群 復習 (実習)			
4	シックルスケーリング 9・10群 相互実習 (実習)	臨床実習室：シックルスケーリング 9・10群 相互実習 (実習)			

5	キュレットスケーラー操作 11・12 群 (実習)	基礎実習室：キュレットスケーラー操作 11・12 群 および 9・10 群 復習 (実習)
6	シックルスケーリング 11・12 群 相互実習 (実習)	臨床実習室：シックルスケーリング 11・12 群 相互実習 (実習)
7	パワー(機械的)スケーラー 基礎実習 (講義・実習)	超音波スケーラー・エアスケーラー 基礎実習 (講義・実習)
8	スケーラー操作 まとめ (講義・実習)	基礎実習室：キュレットスケーラー操作 まとめ および 11・12 群 復習 (実習)
9	パワー(機械的)スケーラー 相互実習Ⅰ (実習)	臨床実習室：超音波スケーラー・エアスケーラー 相互実習① (実習)
10	PMTC 基礎実習 (講義・実習)	基礎実習室：PMTC 基礎実習 (講義・実習)
11	パワー(機械的)スケーラー 相互実習Ⅱ (実習)	臨床実習室：超音波スケーラー・エアスケーラー 相互実習② (実習)
12	キュレットスケーラー操作 実技テスト (実習)	基礎実習室：キュレットスケーラー操作 実技テスト (実習)
13	PMTC・歯面清掃器 相互実習Ⅰ (実習)	臨床実習室：PMTC・歯面清掃器(エアポリッシャー) 相互実習① (実習)
14	シャープニング (講義・実習)	基礎実習室：シャープニング (講義・実習)
15	PMTC・歯面清掃庫器 相互実習Ⅱ (実習)	臨床実習室：PMTC・歯面清掃器(エアポリッシャー) 相互実習② (実習)

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	う蝕予防処置Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	う蝕予防処置Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	30
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	歯科衛生士としてう蝕の抑制または予防をし、さらに人々の歯・口腔の健康を維持・増進させるために、専門的な知識、技術および態度を習得する。				
到達目標	・フッ化物局所応用の各実習を通して、それぞれの術式の説明およびフッ化物の安全な取り扱いができる。 ・う蝕活動性試験の実習を通して、それぞれの実施手順および判定基準に基づく評価法の説明と指導方法の立案ができる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	う蝕予防処置Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	森合　恵子		実務経験	○	
実務内容	大学病院や特別養護老人ホーム、歯科クリニックで歯科衛生士として25年勤務した実務経験を基に、う蝕の抑制または予防処置を安全・的確に行うための知識、技術および態度を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	フッ化物の基礎知識(講義)	フッ化物の基礎知識/フッ化物の毒性			
2	フッ化物歯面塗布法Ⅰ(実習)	歯ブラシゲル法　相互実習			
3	フッ化物歯面塗布法Ⅱ(実習)	トレー法　相互実習			
4	フッ化物歯面塗布法Ⅲ(実習)	綿球塗布法　相互実習			
5	フッ化物歯面塗布法Ⅳ	綿球塗布法　実技試験			
6	フッ化洗口法(実習)	洗口液の調製/方法			
7	フッ化ジアンミン銀塗布法(講義)	フッ化ジアンミン銀の特徴/作用機序			
8	フッ化ジアンミン銀塗布法(実習)	フッ化ジアンミン銀の抜去歯への塗布/手指、布への着色・脱色			

9	う蝕活動性試験Ⅰ(講義)	う蝕活動性試験の方法・判定
10	う蝕活動性試験Ⅱ(講義・実習)	唾液流出量測定/Dentocult-LB
11	う蝕活動性試験Ⅲ(講義・実習)	Dentobuff-Strip、Dentocult-SM
12	う蝕予防プログラム	う蝕予防プログラム/メンテナンス
13	小窩裂溝填塞法Ⅰ(講義)	目的/作用機序
14	小窩裂溝填塞法Ⅱ(実習)	小窩裂溝填塞法 マネキン実習
15	まとめ	総まとめ/国家試験対策

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	歯科保健指導Ⅱ		
必修選択	必修	(学則表記)	歯科保健指導Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	2	60
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。				
到達目標	・ 歯科保健指導に関わる理論と行動変容を説明できる。 ・ 口腔保健と生活習慣の関係を説明できる。 ・ 各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　提出物：10％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	歯科保健指導Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ／食生活・栄養指導				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	三好　香織			実務経験	○
実務内容	歯科衛生士として、大学病院やクリニックにて8年間勤務した実務経験を基に、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するための知識、技術および態度を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	保健行動支援のための基礎知識（講義）	行動変容に関連する理論／行動変容を促す理論の実践			
2	口腔機能管理に関わる指導／生活習慣の指導Ⅰ（講義）	口腔機能の発達に関連する指導／口腔機能の低下に関連する指導／生活習慣の指導①：非感染性疾患			
3	生活習慣の指導Ⅱ／ストレスマネジメント（講義）	生活習慣の指導②：喫煙者に対する指導／ストレスマネジメント			
4	情報収集と情報処理Ⅰ（講義・演習）	患者(対象者)からの情報収集／医療面接／全身の健康状態／認知機能／生活環境・生活背景・生活習慣			
5	情報収集と情報処理Ⅱ／分析のためのデータ（講義・演習）	口腔の器質的問題／口腔の機能的問題／分析のためのデータ：指標・写真・画像			
6	ライフステージに対応した歯科衛生介入　妊産婦期（講義・演習）	一般的特徴／口腔の特徴／歯科衛生介入／妊産婦の栄養／妊娠期と授乳期の食事摂取基準・食生活指導			

7	ライフステージに対応した歯科衛生介入 乳児期（講義・演習）	乳児期の一般的特徴／口腔の特徴／歯科衛生介入／栄養／離乳期の栄養摂取
8	ライフステージに対応した歯科衛生介入 幼児期（講義・演習）	幼児期の一般的特徴／口腔の特徴／歯科衛生介入／幼児期の食生活の特徴と栄養／間食
9	ライフステージに対応した歯科衛生介入 学齢期（講義・演習）	学齢期の一般的特徴／口腔の特徴／歯科衛生介入／学齢期の食生活の特徴と栄養／食育の重要性
10	ライフステージに対応した歯科衛生介入 青年期（講義・演習）	青年期の一般的特徴／口腔の特徴／歯科衛生介入／青年期の食生活の特徴と栄養
11	ライフステージに対応した歯科衛生介入 成人期（講義・演習）	成人期の一般的特徴／口腔の特徴／歯科衛生介入／成人期の食生活の特徴と栄養／生活習慣予防と栄養指導
12	ライフステージに対応した歯科衛生介入 老年期（講義・演習）	老年期の一般的特徴／口腔の特徴／歯科衛生介入／老年期の食生活の特徴と栄養／高齢者の低栄養の要因
13	配慮を要する者への歯科衛生介入 要介護高齢者（講義）	要介護高齢者の一般的特徴／口腔の特徴／歯科保健指導／要介護高齢者の食生活の特徴と栄養
14	配慮を要する者への歯科衛生介入 障害児者（講義）	障害児者の一般的特徴／口腔の特徴／歯科衛生介入／障害児者の食生活の特徴と栄養
15	配慮を要する者への歯科衛生介入 大規模災害被災者（講義）	災害と避難施設／災害時の歯科保健医療／歯科保健医療のためのアセスメントと支援活動／災害時の多職種連携

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	歯科診療補助実習Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	歯科診療補助実習Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	2	60
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」 歯科衛生学シリーズ「歯科材料」「歯科機器」		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎知識、技術および態度を習得する。				
到達目標	・各治療時の補助のために必要な検査や治療手順の説明、薬剤および器材の使用方法的説明と取り扱いができる。 ・画像検査についての基礎知識および歯科用エックス線写真撮影の機器の取り扱いと撮影時の患者対応ができる。 ・口腔内写真撮影の手順および撮影時の注意点と画像の管理方法を理解し、的確な写真撮影ができる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト(実技テスト)：20％　提出物：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	歯科診療補助実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	中川　美希		実務経験	○	
実務内容	歯科衛生士として一般歯科開業医にて13年勤務した実務経験を基に、さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応する力を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元		内容		
1	保存修復治療時の診療補助Ⅰ (講義・実習)		直接修復の手順・使用器材/コンポジットレジン修復の診療補助		
2	保存修復治療時の診療補助Ⅱ (講義・実習)		直接修復の手順・使用器材/グラスアイオノマーセメント修復の診療補助		
3	保存修復治療時の診療補助Ⅲ (講義・実習)		間接修復の手順・使用器材/インレー修復の診療補助/覆髄剤・裏層材の取り扱い		
4	歯内療法時の診療補助Ⅰ (講義・実習)		麻酔抜髄法の手順・使用器材および診療補助		
5	歯内療法時の診療補助Ⅱ (講義・実習)		根管充填の手順・使用器材および診療補助		
6	歯周外科治療時の診療補助 (講義・実習)		歯周治療の基礎知識/歯周外科治療の手順・使用器材および診療補助/歯周パックの取り扱い		
7	補綴治療時の診療補助Ⅰ (講義・実習)		クラウン製作の手順・使用器材および診療補助/テンポラリークラウンの作製実習①		
8	補綴治療時の診療補助Ⅱ (実習)		テンポラリークラウンの作製実習②		

9	補綴治療時の診療補助Ⅲ （講義・実習）	義歯製作・義歯調整の手順・使用器材および診療補助/リベース材・リライニング材の取り扱い
10	口腔外科治療時の診療補助Ⅰ （講義・実習）	局所麻酔の手順・使用器材および診療補助/普通抜歯の手順・使用器材および診療補助
11	口腔外科治療時の診療補助Ⅱ （講義・実習）	難抜歯の手順・使用器材および診療補助/外科小手術の手順・使用器材および診療補助
12	矯正治療時の診療補助 （講義・実習）	矯正治療時の使用器材と用途・手順および診療補助/矯正治療に関する患者指導
13	小児歯科治療時の診療補助 （講義・実習）	歯冠修復時の使用器材と用途・手順および診療補助/生活歯髄切断法の手順・使用器材および診療補助
14	エックス線写真撮影（講義・実習）	歯科用エックス線写真撮影の基礎知識/歯科用エックス線写真撮影機器の取り扱い/撮影時の患者対応
15	口腔内写真撮影（講義・実習）	口腔内写真撮影の手順および注意点/画像の管理方法/口腔内写真撮影の実践

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	歯科診療補助実習Ⅳ		
必修選択	必修	(学則表記)	歯科診療補助実習Ⅳ		
開講			単位数	時間数	
年次	2年	学科	歯科衛生士科	2	60
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」 歯科衛生学シリーズ「歯科材料」「歯科機器」		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する基礎知識、技術および態度を習得する。				
到達目標	・各専門治療時の補助のために必要な検査や治療手順の説明、薬剤および器材の説明と取り扱いができる。 ・摂食嚥下機能の基礎知識を習得し、口腔機能管理の概要の説明および摂食嚥下障害への対応ができる。 ・主な全身疾患の基礎知識を学び、歯科治療上の注意点および配慮の説明と対応ができる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	歯科診療補助実習Ⅰ～Ⅲ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	中川　美希		実務経験	○	
実務内容	歯科衛生士として一般歯科開業医にて13年勤務した実務経験を基に、さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応する力を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	高齢者歯科治療時の診療補助 (講義・実習)	高齢者歯科治療の基礎知識/患者対応の実践			
2	障がい児者歯科治療時の診療補助 (講義・実習)	障がい児者歯科治療の基礎知識/障がい児者対応の実践			
3	インプラント治療時の診療補助 (講義・実習)	インプラント治療時の基礎知識/インプラント治療の器具器材および使用法用			
4	審美歯科治療時の診療補助 (講義・実習)	審美歯科治療の基礎知識/ホワイトニングに必要な薬剤・器材/マウスピースの作製			
5	歯科衛生士が関わる医科疾患Ⅰ (講義)	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点			
6	歯科衛生士が関わる医科疾患Ⅱ (講義)	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点			
7	歯科衛生士が関わる医科疾患Ⅲ (講義)	主な全身疾患の基礎知識と歯科診療上の注意点			
8	周術期における口腔機能管理Ⅰ (講義)	周術期口腔機能管理の概要/周術期の病態と治療時の対応			

9	周術期における歯科診療の補助 (講義・実習)	周術期の歯科診療への対応/歯科診療上の注意点
10	歯科訪問診療における対応(講義)	歯科訪問診療の概要/歯科訪問診療の流れ
11	歯科訪問診療における歯科診療の補助 (講義・実習)	歯科訪問診療に必要な器材および治療の手順/患者対応
12	口腔機能管理Ⅰ(講義)	口腔機能の種類/摂食嚥下に関わる構造と機能
13	口腔機能管理Ⅱ(講義・実習)	発達期の摂食嚥下機能
14	口腔機能管理Ⅲ(講義・実習)	スクリーニング検査と観察評価
15	口腔機能管理Ⅳ(講義・実習)	摂食嚥下障害と摂食嚥下リハビリテーション

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	歯科医療事務Ⅰ		
必修選択	選択	(学則表記)	歯科医療事務Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科医療事務 症例と解説			出版社	アイデンタルサービス
科目の基礎情報②					
授業のねらい	医科医療事務だけでなく、歯科医療事務を学ぶことによって就職先の幅を増やす				
到達目標	歯科医療事務の知識を習得し、また診療報酬請求の方法を学び、レセプト作成が出来るようになる				
評価基準	期末テスト：50％、小テスト：20％、提出物：20％、授業態度：10％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科医療事務検定1級				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	松尾 香緒里			実務経験	
実務内容					
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	オリエンテーション 窓口対応	オリエンテーション（目的・授業内容・評価方法の説明） 医科との違い・ケースワーク（受付・会計）			
2	歯と口腔の基礎	口腔の構造と名称・歯面の名称と歯式			
3	基本診療料	初診料・再診料・各加算			
4	C（う蝕）	う蝕の治療法と流れ・充形に含まれるもの 充填・1歯2窩洞			
5	C（う蝕）				
6	C（う蝕）				
7	C（う蝕）				
8	C（う蝕） 小テスト	今までの復習 小テストの実施			

9	C（う蝕）	窩洞形成・麻酔（浸麻のルール）・除去料
10	C（う蝕）	
11	C（う蝕）	乳幼児加算 早期充填処置・う蝕薬物塗布処置
12	C（う蝕）	インレー説明・修形に含まれるもの・画像診断について
13	C（う蝕）	
14	期末テスト	期末テストの実施
15	振り返り	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	歯科医療事務Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	歯科医療事務Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	30
使用教材	歯科医療事務 症例と解説			出版社	アイデンタルサービス
科目の基礎情報②					
授業のねらい	医科医療事務だけでなく、歯科医療事務を学ぶことによって就職先の幅を増やす				
到達目標	歯科医療事務の知識を習得し、また診療報酬請求の方法を学び、レセプト作成が出来るようになる				
評価基準	期末テスト：50％、小テスト：20％、提出物：20％、授業態度：10％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科医療事務検定1級				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	松尾 香緒里			実務経験	
実務内容					
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	オリエンテーション	前期の授業の復讐			
2	前期の復習				
3	歯髄炎	歯髄炎の治療法と流れ・投薬料・処方箋料			
4	歯髄炎				
5	根尖性歯周炎	根尖性歯周炎の治療法と流れ			
6	根尖性歯周炎				
7	歯冠修復	歯冠修復の流れ			
8	歯冠修復				

9	歯冠修復	歯冠修復の基礎知識
10	歯冠修復	
11	歯冠修復	歯冠修復の流れ 小テストの実施
12	小テスト	
13	歯周疾患	歯周疾患の治療と流れ
14	歯周疾患	
15	歯周疾患	
16	歯周疾患	
17	手術	抜歯・手術・その他（歯ぎしり・顎関節症）
18	手術	
19	手術	
20	手術	
21	ブリッジ	ブリッジ作製手順
22	ブリッジ	
23	義歯	有床義歯（新製・修理）
24	義歯	
25	義歯	
26	義歯	
27	期末テスト	期末テストの実施
28		
29	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ
30		

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	救急救命処置		
必修選択	選択	(学則表記)	救急救命処置		
開講			単位数	時間数	
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	30
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」 イラストでわかる歯科医学の基礎 第5版		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	救急救命処置のために必要なバイタルサインの測定や処置器材の使用法を習得する。				
到達目標	・ バイタルサインの測定および血圧・脈拍・心機能・呼吸のモニタリングができる。 ・ 一次救命処置および二次救命処置の手順の説明、および必要な器材の準備ができる。 ・ AEDの取り扱いができる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト(実技テスト)：20％　提出物：10％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士／救命技能認定証				
関連科目	歯科診療補助実習Ⅰ～Ⅳ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	中山　瑚都美		実務経験		
実務内容					
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	救急処置の基本的知識Ⅰ(講義)	救急処置の重要性			
2	救急処置の基本的知識Ⅱ(講義)	救急処置者の心得			
3	救急処置の基本的知識Ⅲ(講義)	救急処置の基本的留意点			
4	現場における救急体制Ⅰ(講義)	救急体制の重要性と計画			
5	現場における救急体制Ⅱ (講義・演習)	事故発生時のフローチャートの計画			
6	現場における救急体制Ⅲ (講義・演習)	各種救急処置用器材および用品に関する知識とその利用法			
7	現場における救急体制Ⅳ (講義・演習)	現場における救急体制の実際			
8	緊急時の救命処置Ⅰ(講義・演習)	心肺蘇生法 ・ 観察と安全確認・気道確認・人工呼吸・胸骨圧迫・AEDの使用・2次救命処置との連携			

9	緊急時の救命処置Ⅱ(講義・演習)	傷病者観察～ファーストエイド
10	緊急時の救命処置Ⅲ(講義・演習)	頭部外傷の救急処置の留意点及び応急処置
11	コミュニケーションⅠ(講義)	救急救命を行う上でのコミュニケーションを学ぶ。 チーム医療としてのコミュニケーションを学ぶ。
12	コミュニケーションⅡ(演習)	救急救命を行う上でのコミュニケーションを学ぶ。 チーム医療としてのコミュニケーションを学ぶ。
13	コミュニケーションⅢ(演習)	救急救命を行う上でのコミュニケーションを学ぶ。 チーム医療としてのコミュニケーションを学ぶ。
14	救急救命処置 実習(実習)	普通救命講習 受講
15	まとめ(演習)	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実技	科目名	臨地・臨床実習演習		
必修選択	選択	(学則表記)	臨地・臨床実習演習		
開講			単位数	時間数	
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	45
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」「歯科材料」「歯科機器」 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 他 全般		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	これまでに学んできた基礎知識・技術および態度を、臨床実習の場で円滑に実践していくことに備えて総復習を行い、理解を深め技術を向上させ、臨床現場での実習に臨む心構えを認識する。				
到達目標	・ 患者実習での術者として、口腔内での各検査および各操作技術の向上と習得、患者への歯科保健指導ができる。 ・ 歯科診療補助実習において、これまでの基礎知識を整理し理解を深め、各器材や材料の操作および取り扱いの技術を向上させる。 ・ 患者実習での補助者として、患者応対および患者誘導、術者への的確な補助ができる。				
評価基準	小テスト(実技テスト)：40％ 提出物：40％ 実習態度：20％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	歯科予防処置論Ⅰ～Ⅲ/歯科診療補助実習Ⅰ～Ⅳ/歯科保健指導Ⅰ・Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	小林 聖子 他1名		実務経験	○	
実務内容	大学病院や病院、クリニックで歯科衛生士として29年間勤務した実務経験を基に、臨床現場での実習に臨む心構えを教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	患者実習	術者①：口腔内消毒・口腔内診査および検査・保健指導・スケーリング・歯面研磨・貼薬・術後指導			
2		補助者①：術者の補助			
3		術者②：口腔内消毒・口腔内診査および検査・保健指導・スケーリング・歯面研磨・貼薬・術後指導			
4		補助者②：術者の補助			
5	患者実習 受付応対・消毒	受付：患者実習での受付応対・患者誘導／消毒：患者実習での実習室内 器材および消毒 準備			
6		印象採得			
7		保存修復／TeC			
8		歯内療法			

9	歯科診療補助実習	仮封材
10		合着材
11		補綴
12		印象採得 相互実習
13		感染予防対策
14		トレーセッティング
15	臨地・臨床実習演習 まとめ	臨地・臨床実習演習 まとめ／患者実習用カルテ・実習記録 完成／実習ノート 完成

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	臨地・臨床実習Ⅰ		
必修選択	必修	(学則表記)	臨地・臨床実習Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	6	270
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」「歯科材料」「歯科機器」 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 他 全般		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	歯科衛生業務を修得するために、歯科診療の場を通して歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を身につける。				
到達目標	・ 歯科医師およびスタッフからの指示内容を踏まえた対応ができる。 ・ スタッフ(他職種を含む)と協働し、連携のとれた対象者へのサービスができる。 ・ プライバシーを配慮した態度での対応および対象者の守秘義務を遵守できる。 ・ 診療室のルールを理解した行動および医療安全に配慮した行動ができる。 ・ 器材・機器および薬品の管理の方法を理解した行動ができる。				
評価基準	実習施設側評価(実習項目評価)：80％ 学校側評価(実習帳・レポート評価)：20％				
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	歯科予防処置論Ⅰ～Ⅲ／歯科診療補助実習Ⅰ～Ⅳ／歯科保健指導Ⅰ・Ⅱ／他 全般				
備考	原則、この科目は臨地・臨床実習施設にて実施する				
担当教員	小林 聖子 他1名		実務経験	○	
実務内容	大学病院や病院、クリニックで歯科衛生士として29年間勤務した実務経験を基に、歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元		内容		
1	第Ⅰ期 臨床実習 ガイダンス		第Ⅰ期 臨床実習 説明		
2	第Ⅰ期 臨床実習		各臨床実習施設（歯科診療所）にて実習		
3	第Ⅰ期 臨床実習 まとめ		第Ⅰ期 臨床実習 まとめ／実習帳 集計作業・まとめ・提出・確認／振り返り		

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	先端歯科医療概論		
必修選択	必修	(学則表記)	先端歯科医療概論		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生学シリーズ「歯科補綴学」 歯科衛生学シリーズ「保存修復学・歯内療法学」 他		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	最新の歯科治療に対応した歯科衛生業務を行うために必要な先端歯科医療の基礎知識を習得する。				
到達目標	・最新の歯科治療に対する関心を常に持ち、情報の収集および開示ができる。 ・審美歯科治療について概説できる。 ・インプラント治療についての概説およびインプラント治療における歯科衛生士の役割を説明できる。				
評価基準	期末テスト：70％ 小テスト：20％ 授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	歯科衛生士				
関連科目	歯科補綴学・保存修復学 他				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員			実務経験		
実務内容					
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	審美歯科治療Ⅰ	審美歯科とは／メタルフリー歯冠修復治療①			
2	審美歯科治療Ⅱ	メタルフリー歯冠修復治療②			
3	審美歯科治療Ⅲ	ホワイトニングとは／オフィスホワイトニング			
4	審美歯科治療Ⅳ	ホームホワイトニング			
5	インプラント治療Ⅰ	インプラントの基礎知識			
6	インプラント治療Ⅱ	インプラント治療の流れとアシスタント①〔インプラントの埋入〕			
7	インプラント治療Ⅲ	インプラント治療の流れとアシスタント②〔インプラント補綴処置〕			
8	インプラント治療Ⅳ	インプラントのメンテナンスと歯科衛生士の役割			

9	レーザー治療Ⅰ	レーザー治療とは／エルビウム・ヤグ（Er:YAG）レーザーの歯科治療への応用①
10	レーザー治療Ⅱ	エルビウム・ヤグ（Er:YAG）レーザーの歯科治療への応用②
11	レーザー治療Ⅲ	エルビウム・ヤグ（Er:YAG）レーザーの歯科治療への応用③／その他のレーザー
12	スポーツ歯科Ⅰ	スポーツ歯科とは
13	スポーツ歯科Ⅱ	スポーツ歯科の対象疾患
14	MI治療Ⅰ	MIとは／できるだけ削らない治療法①
15	MI治療Ⅱ	できるだけ削らない治療法②

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	看護概論		
必修選択	必修	(学則表記)	看護概論		
開講			単位数	時間数	
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	歯科衛生士のための看護学大意 歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック		出版社	医歯薬出版	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	医療従事者としての職業倫理を身につける。 看護に対する考え方や態度を養うことで、身近で協働する看護師の役割を学ぶ。 倫理的な考えを通して、人間の存在、価値観、ものの見方を学び、自分の倫理観を見つけていく。				
到達目標	看護の対象としての人間について、さまざまな視 点から適切な対応ができる。 人間と環境との関係を理解し環境が人 間に及ぼす影響を述べることができる。 日々の中で、何が良いことか、根拠をもって考えながら行動する姿勢が高まる。				
評価基準	期末テスト：70％　小テスト：20％　授業態度：10％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	山本　江里子		実務経験	○	
実務内容	大学付属病院にて高度救命救急センター・ＩＣＵ・ＣＣＵ、小児外科病棟など看護師として11年勤務した実務経験を基に、協働する看護師の役割や倫理感の養い方を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	病院における歯科衛生士の役割Ⅰ	歯科衛生士の活動の場/診療所			
2	病院における歯科衛生士の役割Ⅱ	病院/医療チームのなかの歯科衛生士			
3	看護の概念	看護の歴史/看護とは			
4	歯科衛生士が知っておくべき看護技術Ⅰ	バイタルサイン①			
5	歯科衛生士が知っておくべき看護技術Ⅱ	バイタルサイン②/バイタルサインの測定方法①			
6	歯科衛生士が知っておくべき看護技術Ⅲ	バイタルサインの測定方法②			
7	歯科衛生士が知っておくべき看護技術Ⅳ	患者とのコミュニケーション/患者への支援			
8	歯科衛生士が知っておくべき看護技術Ⅴ	患者の安全と安楽/栄養と食事			

9	歯科衛生士が知っておくべき看護技術Ⅵ	その他の看護技術
10	歯科衛生士に必要な看護実務Ⅰ	患者の観察および治療経過の記録の作成/病院外来での業務
11	歯科衛生士に必要な看護実務Ⅱ	入院を要する患者の看護
12	歯科衛生士に必要な看護実務Ⅲ	口腔ケア/救急時の看護/洗浄・消毒・滅菌
13	歯科衛生士に必要な看護実務Ⅳ	感染対策/医療安全対策
14	地域医療活動における歯科衛生士の役割Ⅰ	地域社会における看護のあり方/保健・医療・福祉チームとの連携
15	地域医療活動における歯科衛生士の役割Ⅱ	在宅医療における歯科衛生士の役割

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	介護技術		
必修選択	必修	(学則表記)	介護技術		
			単位数	時間数	
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	30
使用教材			出版社		
科目の基礎情報②					
授業のねらい	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する。				
到達目標	・「生活」とは何かを理解し、「生活」を支えるための必要な支援とは何かを理解することができる。 ・生活を支援するためには、様々な視点・アプローチがあることを学び、多様性のある利用者の生活を支援するために欠かせない柔軟な思考を育むことができる。				
評価基準	期末テスト: 70% 小テスト : 20% 授業態度 : 10%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	なし				
関連科目	なし				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	北上 愛子		実務経験	○	
実務内容	病院やデイサービスにて介護福祉士として19年間勤務した実務経験を基に、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を教授する。				
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について			
2	自立に向けた身じたくの介護Ⅰ	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法①			
3	自立に向けた身じたくの介護Ⅱ	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法②			
4	自立に向けた身じたくの介護Ⅲ	整容行動、衣生活を調整する能力のアセスメントと介助の技法③			
5	自立に向けた食事の介護Ⅰ	安全で的確な食事介助の技法①			
6	自立に向けた食事の介護Ⅱ	安全で的確な食事介助の技法②			
7	自立に向けた食事の介護Ⅲ	安全で的確な食事介助の技法③			
8	自立に向けた排泄の介護Ⅰ	安全で的確な排泄の介助の技法①			

9	自立に向けた排泄の介護Ⅱ	安全での確な排泄の介助の技法②
10	自立に向けた移動の介護Ⅰ	安全での確な移動・移乗介助の技法①
11	自立に向けた移動の介護Ⅱ	安全での確な移動・移乗介助の技法②
12	自立に向けた介護実践Ⅰ	安全での確な介護実践①
13	自立に向けた介護実践Ⅱ	安全での確な介護実践②
14	振り返り	振り返り
15	まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ビジネスマナーⅠ		
必修選択	必修	(学則表記)	ビジネスマナーⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	新版 医療の接遇		出版社	医療タイム社 教育研修事業部編	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	ビジネスマナー全般の知識を習得する。 歯科衛生士として働くにあたり必要となる接遇・マナーを身につける。				
到達目標	相手が感じがよいと思う言葉遣いや相手に満足とじてもらえる行動ができる。 社会に出て働く人に求められる基本的な仕事の仕方・態度振る舞いができる。 愛想と愛嬌を理解し歯科衛生士として必要なマナーや考え方を理解して行動に移すことができる。				
評価基準	期末テスト：40％、小テスト：30％、授業態度（提出物含む）：30％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	サービス接遇実務検定、秘書技能検定、ビジネス文書技能検定、医療秘書技能検定				
関連科目	ビジネスマナーⅡ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	櫻井 友里恵		実務経験		
実務内容					
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	オリエンテーション	授業の進め方 成績評価について			
2	医療機関とは	医療における接遇とは			
3	医療機関とは	医療機関ってどんなところ？			
4	医療機関とは	医療機関の特性			
5	医療人としての接遇	第一印象の重要性・身だしなみ・表情			
6	医療人としての接遇	挨拶・態度・動作			

7	医療人としての接遇	言葉づかい
8	医療人としての接遇	電話対応
9	医療人としての接遇	電話対応
10	医療人としての接遇	カウンセリングマインド*
11	医療人としての接遇	実践練習
12	実践的なコミュニケーション術	会話のポイント
13	実践的なコミュニケーション術	会話のポイント
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ビジネスマナーⅡ		
必修選択	必修	(学則表記)	ビジネスマナーⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	歯科衛生士科	1	15
使用教材	新版 医療の接遇		出版社	医療タイム社 教育研修事業部編	
科目の基礎情報②					
授業のねらい	ビジネスマナー全般の知識を習得する。 歯科衛生士として働くにあたり必要となる接遇・マナーを身につける。				
到達目標	相手が感じがよいと思う言葉遣いや相手に満足と感じてもらえる行動ができる。 社会に出て働く人に求められる基本的な仕事の仕方・態度振る舞いができる。 愛想と愛嬌を理解し歯科衛生士として必要なマナーや考え方を理解して行動に移すことができる。				
評価基準	期末テスト：40％、小テスト：20％、授業態度（提出物含む）：40％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	サービス接遇実務検定、秘書技能検定、ビジネス文書技能検定、医療秘書技能検定				
関連科目	ビジネスマナーⅠ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。				
担当教員	櫻井 友里恵		実務経験		
実務内容					
習熟状況等により授業の展開が変わることがあります					
各回の展開					
回数	単元	内容			
1	オリエンテーション	授業の進め方 成績評価について			
2	実践的なコミュニケーション術	対応のポイント			
3	実践的なコミュニケーション術	対応のポイント			
4	実践的なコミュニケーション術	対応のポイント			
5	社会人としての常識	社会人としての心がまえ			
6	社会人としての常識	報告・連絡・相談 遅刻・早退・欠勤			

7	社会人としての常識	名刺交換・来客時のお茶の出し方
8	社会人としての常識	文書マナー
9	社会人としての常識	ビジネスメール
10	ケーススタディ	グループ討論
11	ケーススタディ	グループ討論
12	実践練習	総まとめロープレ実践
13	実践練習	総まとめロープレ実践
14	期末テスト	期末テストの実施
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ